



昭和7年 多田町(現・南台)の農家の風景



昭和35年 東大附属から北を見る

弥生町三丁目って こんな町

弥生町三丁目は古くは東京市近郊の農村として栄えていました。関東大震災以降は、方南通りの整備や、旧制東京高等学校の設立を契機に地域が発展し、人口も増加していき、昭和の初め頃には、すでに住宅が多く建ち、市街地が形成されていました。

昭和36年には中野新橋駅が開設します。都営アパート等も建設され急激に人口が増えていきました。しかし、あまりに急激に人口が増えたため、計画的な都市基盤整備がなされないうちになってしまいました。

現在でも建物の倒壊や火災時の活動困難区域等危険な区域が残るなど、今後30年以内に70%程度の確率で起こると予想されている、首都直下型地震等大地震が発生した時の被害拡大などの不安があります。



昭和26年 都営アパート



昭和53年 川島商店街



2018年1月13日 (撮影:UR)



1992年10月10日 (出典:国土地理院ウェブサイト)

都営川島町
アパート跡地は
生まれ変わります。

そこで、弥生町三丁目周辺を災害に強いまち、安心して住み続けられるまちにするため、中野区とUR都市機構が連携し、都営川島町アパートの跡地を中心に避難道路や公園を整備します。

中野区とUR都市機構は、弥生町三丁目周辺地区の防災まちづくりを着実に推進するため、平成26年3月に協定*を締結しました。これに基づいた双方の役割分担により、当地区の防災まちづくりに取り組んでいます。

*弥生町三丁目周辺地区の防災まちづくり及び都営川島町アパート跡地の活用に係る協定書

中野区の防災まちづくりの取組み

弥生町三丁目周辺地区は、木造住宅が密集し、狭い道路や行き止まり道路も多く、災害時の危険性が高いことから、中野区では、防災性の向上と居住環境の改善を目標に防災まちづくりに取り組んでいます。



【弥生町三丁目周辺地区 防災まちづくり事業計画】

■目標達成への取組み

- 1 | 避難道路ネットワーク等の整備
- 2 | 都営川島町アパート跡地の防災まちづくりへの活用
 - ・権利者用代替地整備
 - ・避難道路整備
 - ・公園整備
- 3 | 建物不燃化促進
- 4 | 防災まちづくりルールの確立



避難道路6号従前



避難道路6号従後

URの密集市街地整備の取組み

UR都市機構は、防災性の向上(ボトムアップ)に加え、地域の潜在的な価値を見出し、地域の価値を高めること(バリューアップ)を念頭に、安全で暮らしやすい市街地への再生に取り組んでいます。

ボトムアップ

道路整備や不燃化の促進による
「防災対策」
「安全性の強化」



孤幅前



孤幅後

■災害時の避難路の確保 緊急用車両の進入路の確保等



■建替え・共同化の促進等



バリューアップ

地区の特性を活かした
「日常生活の質の向上」
「地区の魅力・価値の増進」



■子育て世帯、高齢者等多様な世帯が快適に生活できる環境づくり
(UR団地景観フォト&スケッチ展応募作品)



■地域の生活を豊かにする新たな商業・生活利便施設等の導入

弥生町三丁目周辺地区
まちなみづくりのご提案

マチナミ アイデア ブック

住みたくなる・住み続けたくなるまちへ

災害に強いだけでなく、まちへの愛着をくぐむまちなみを、
まちに集う人たちによりつくりあげていく、安心安全で四季折々の風情を感じる調和したまちなみへ



つながるマチナミ

外壁の色や足元の舗装を、隣の家とそろえると、
調和のとれたまちなみに。
庭先やバルコニーのミドリがつながると、うらおいが生まれます。

A

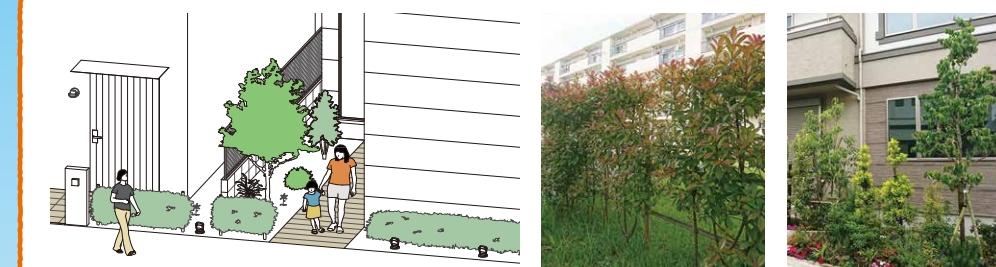
■季節を感じられる植栽(参考リスト)



季節を感じるミドリ

花が咲いたり、紅葉がきれいなミドリを植えて、身近な四季を感じましょう。
ミドリのお手入れで、まちへの愛着が生まれます。
モッコク、ユズリハ、イヌマキなど、火に強いミドリもおススメです。

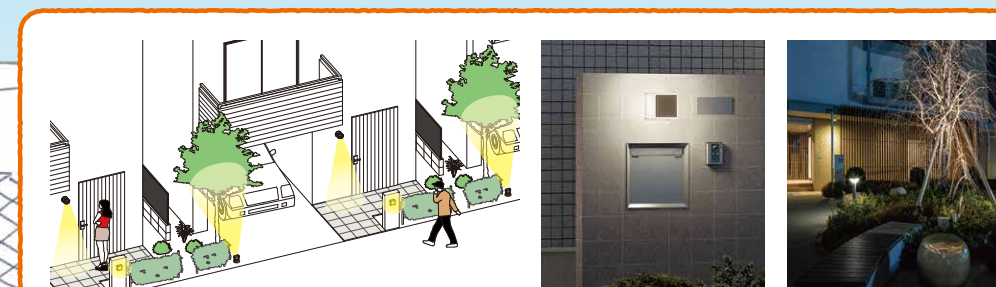
B



安心安全な境界デザイン

圧迫感があって危ない道路沿いのブロック塀はやめましょう。
ミドリの生垣は視線をさえぎりつつ人の気配も感じられて安心です。
踏むと音がする玉砂利も防犯には効果的。

C



まちなみを彩るライトアップ

暖かい色の照明で、夜のまちなみにぬくもりを演出。
眩しすぎない明るさで庭先や生垣のミドリを照らして、
落ち着いたあるまちなみに。

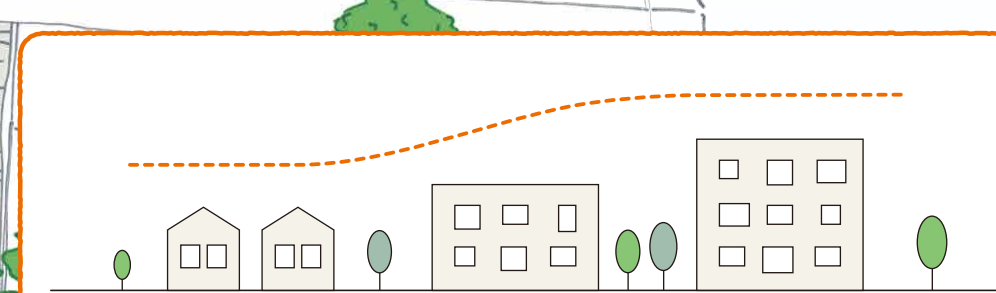
D



みんなが集まるまちの憩いスペース

広い敷地に建てる建物は、道路から離して、
みんなが集まれるスペースを作りましょう。
ゆとりが生まれ、歩行者の安全にも役立ちます。

E



まちななじむ建物デザイン

広い敷地に建てる建物は、高さをおさえてまちなみに馴染ませて。
窓の位置や大きさに変化をつけて圧迫感をなくしましょう。
奇抜な色の外壁はやめましょう。

F